

平成 30 年度 「青少年の健全育成を語る会」 意見発表集

テーマ

“絆” 家族・友達・地域の関わり

宮代小学校 6 年	水野積生 様	「あいさつ運動」をして思ったこと
宮代小学校 6 年	西川結菜 様	人とのつながり「あいさつ」
不破中学校 3 年	福本大晟 様	「絆」
不破高等学校 3 年	多賀雅弥 様	「地域の人たちとの絆」
不破高等学校 3 年	三谷介人 様	「人と人との助け合い」
谷中自治会長	廣岡清隆 様	「関わりがあるから、がんばれる」

意見発表集資料作成

平成 30 年 8 月

◎宮代地区まちづくり協議会

◎宮代地区まちづくり協議会 青少年育成部

◎宮代地区青少年育成協力推進委員会

宮代地区まちづくり協議会

岐阜県不破郡垂井町宮代 664 番地 4

宮代地区まちづくりセンター内

☎&📠 0584 (22) 1010

《語る会》の中止について

宮代まち協 青少年育成部長 (青推会長) 今井 英彦

先日7月7日の土曜日に「青少年の健全育成を語る会」を企画いたしました
が、7月4日から降り始めた雨が、各地方に「警報」をもたらす大雨に変化し、
宮代地区にも「特別警報」が出る状況になり、開催が出来なくなりました。
今日までに、青推委員をはじめ関係各位には、多大なご尽力を頂きましたが、「平
成30年度 青少年の健全育成を語る会」は、中止とさせていただきます。
申し訳ございません。

宮代地区青少年育成部では、年間の最大企画である「語る会」は、垂井町にお
いても地域の特色ある活動と評価の高い企画で、今年も期待され、注目されてい
たので残念です。

昨年の反省において、「大人の側の発表を!」の意見も、改善も試みましたが、
残念で仕方ありません。「語る会」は、同じ場所で、同じテーマで、「意見交換」
をし、子供たち、大人たちの会話ができる場所であり、「あの、おじさん、おば
さん」知っている。「あの人のお孫さん、息子さん、お嬢さん」と人と人のつな
がり「絆」に変わり、「あいさつ」することで、「心」がつながり、住んでいる
地域をわが町と思える活動です。今年度は、中止せざるを得ない気象状態では
したが、来年度は、是非開催できることを祈ります。

猛暑が続いておりますが、体調には十分に気を付けて、ご自愛ください。この
度は、申し訳ございませんでした。

「あいさつ運動をして思ったこと」

宮代小学校 6年 水野積生

ぼくがかよっている宮代小学校では、生活委員会が校門に立って、登校してくる人に、「おはようございます」とあいさつをする「あいさつ運動」をしています。ぼくは去年生活委員でした。今年は生活委員長としてあいさつ運動をしています。今年は去年よりあいさつ運動に力を入れて行っています。今年は毎朝校門であいさつ運動をしています。しかし、生活委員があいさつをしてもあいさつを返してくれる人は数人しかいません。あいさつを返してくれる人が少ないと、「なんであいさつをしているのに返してくれないんだろう。」といやな気持ちになります。それに、「あいさつ運動をやる意味ないんじゃない。」と思うときもあります。そこで生活委員会ではなんとかあいさつをしてくれる人を増やそうと話し合い、あいさつ運動のときあいさつをしてくれた人を、放送でしようかいすることになりました。すると始めたころはあいさつをしてくれた人を全員しようかいすることができたのですが、続けるうちに何人か選んで放送しなければならぬほど、あいさつをしてくれる人が増えていきました。そうすると、「あいさつ運動を続けていてよかったな」ととてもうれしい気持ちになりました。それに、これからもあいさつ運動をがんばろう、続けようというやる気がでてきました。そして、前とはちがってあいさつ運動がやりがいのあるものになってきました。もっとたくさんの方があいさつをしてくれるとうれしいです。そもそもなぜあいさつするのか考えてみました。一つはあいさつをしてくれたり、返してくれるとされた人はうれしい気持ちやいい気持ちになるからだと思います。あいさつをするとされた人はうれしくなって他の人にあいさつし、それが広がり、あいさつが広がると思います。あいさつをする理由のもう一つは、あまり話したことのない人や初めて会う人でもあいさつすることで、話すことができたり、仲良くなれるかもしれないからです。ぼくはこの前、インリーダ研修会に行きました。そこにはちがう小学校の知らない人がたくさんいました。しかしあいさつすることで、少しずつ話せるようになりました。知らない人でもあいさつをすれば少しずつ親しくなれることが分かりました。あいさつは、学校のあいさつ運動だけでなく社会でも大事なことです。このようなことからぼくは、生活委員長としてあいさつ運動のためにあいさつをすることも大事ですが相手にうれし

気持ちになってもらうために、それに人と親しくなれるようにするためにあいさつをすることが一番大切だと思います。これからぼくはあいさつをすることの大切さを感じながら、あいさつ運動をしていきたいです。そして全校のみんながあいさつをしてくれるようになるといいなと思います。あいさつ運動で生活委員だけにあいさつをするのではなくて、みんながみんなにあいさつできるようになってほしいです。ぼく自身もあいさつをたいせつにして、たくさんの人に自分から積極的にあいさつをしていきたいです。そしてあいさつを広めていきたいです。

人とのつながり「あいさつ」

宮代小学校 6年 西川結菜

私は、生活委員会の副委員長をしています。生活委員の活動の一つとして、あいさつボランティアをしています。あいさつボランティアとは、朝、登校してくる全校児童に、元気よく気持ちのよいあいさつをすることです。あいさつ運動は、毎年行っていて、今年から西門の坂の前ですることになりました。あいさつする子が増えるようにするため、あいさつボランティアをやっています。

私が、気付いたことは、あいさつをしてもあいさつを返してくれに人がいるということです。元気な声であいさつを返してくれる人は、数名しかいません。生活委員の中でもあいさつボランティアをやってくれない人もいます。そこで、皆に、あいさつを意識してもらえるように、先取りあいさつカードを作りました。九人から、十人までに先取りあいさつができたなら、青色、五人から八人までに先取りあいさつができたなら、黄色、四人までに先取りあいさつができたなら赤色となっています。そこで、あいさつをしてくれる子の名前をお昼の放送で紹介することにしました。すると、若干、低学年の子は、あいさつをしてくれる子が増えました。

私が思ったことは、あいさつを返してくれないと悲しい気持ちになるということです。地域の人達も、自分があいさつして返してくれないと悲しい気持ちになってしまうことを知りました。私は、あいさつボランティアの活動を通して、元気よく気持ちのいいあいさつをした方がいいということ学びました。校長先生から、元気のいいあいさつをしてもらって、とてもいい気持ちになりました。次は、私が皆をいい気持ちにさせたいと思います。低学年の子達は、放送して、自分の名前を呼んでもらえると、うれしい気持ちになる子が多いので、放送することは、これからも続けていきます。課題として、高学年はどうしたらあいさつを進んでするのか、考えていきたいと思っています。

「あいさつ」は、元気ではない子が、元気になったり、心が温かくなる言葉なので落ちこんでいる子をはげませるきっかけになります。そこから、「絆」、「友情」が生まれてくるので、今やっているキャンペーンをきっかけに、あいさつをしてくれる子が増えてほしいと思います。

「絆」

不破中学校3年 福本 大晟

絆という言葉は僕はよく耳にします。でも、その絆ということについて、真剣に考えたことはありませんでした。今回、この役を頂いて、改めて考えてみると、それは「笑顔」なんだという答えにたどり着きました。

詳しく言うと、家族や友達と話をしたり、何か一緒に活動したりした時に生まれる笑顔が絆につながるのだと思うのです。

僕の家族は父母兄自分の4人で、ごく普通の家族です。朝起きると僕は「おはよう」と言い、家族からも「おはよう」が、学校から帰り「ただいま」と言うと「お帰り」という言葉が当たり前に戻ってきます。

そんなちいさな言葉からも家族の絆は生まれているのだと思います。また、その時の家族は笑顔だと思うのです。

家族の何気ない日常の会話や何気ない生活の中の関わりなどから笑顔が生まれ、絆となっていくます。ですから、僕は、これからも自然に家族と会話をし、毎日の生活を送ろうと思います。

今、不破中学校でも絆は多くの場面で見られます。

例えば、クラスで運動会や合唱の取組みをする時、クラスの一人一人が、つまり全員が目標に向かって突っ走っていきます。そんな時、絆というか団結のすごさ・素晴らしさを感じてしまいます。集団・仲間って本当に大切な存在なんだなと思います。

僕は絆が生まれた時、笑顔も生まれていると言いました。僕は、よく友達とくだらない・どうでもいい話をして、たくさん笑っています。そこには友達との絆が生まれています。

僕がたどり着いた絆についての答えは「笑顔」でした。しかし、それは人によって違うのだと思います。絆の作り方・生まれ方は違っていいのだと思います。

これから僕は、不破中学校の生徒の一人として、また、生徒会長として、多くの友達と笑顔で話しをして、不破中学校全体の絆を深めることが出来るといいなと考えています。そうなるよう、頑張ります。同様に、宮代地区の絆も深めていきたいと思っています。

「地域の人たちと絆」

不破高等学校 3年 多賀 雅弥

僕たち不破高校生徒会執行部は、地域のボランティア活動に積極的に参加しています。僕がボランティアを通して得たものは、地域の人々とのつながりでした。

生徒会執行部に入り、ボランティア活動に取り組み始めた頃は、正直めんどうくさいと思うことがありました。けれど、続けていくうちに、地域の人が顔を覚えてくれるようになりました。そして、次第に地域の人と話をするのが楽しくなりました。

ボランティアに取り組む中で気付いたことは、地域とのつながりの大切さです。不破高校もたくさんの地域の人たちに支えられています。例えば、登校時に挨拶をしてくださったり、休日に野球部が練習をしている様子を見て声をかけてくださったりします。他にも自然科学部では、地域の人に協力してもらい南宮山に生息するシカの研究を行っています。このように僕たちは地域の人に支えられて、よりよい学校生活を送ることができているのだと思います。

生徒会執行部ではボランティアに参加した際に、募金活動を行っています。これまで東日本大震災、熊本大地震などの義援金を寄付させていただきました。地域の方々が募金活動に協力して下さったおかげでたくさんの義援金が集まりました。人々の絆の輪が広がったように思います。

僕は、ボランティアを通して人と人の絆の大切さを学びました。これは社会に出た時、きっと役に立つことだと思います。ここで学んだことを生かして社会に貢献できるように頑張っていきたいと思います。今は地域の人々のつながりが希薄なっていますが、みなさんもぜひ地域の人々との関わりを深めてみてください。

「人と人との助け合い」

不破高等学校 3年 三谷 介人

みなさんは誰かの役に立ったり、誰かに助けられたりした経験がありますか？

僕は、学校生活を送るうえで友達や先生、家族などたくさんの人に助けられてきたように思います。人と人との助け合いは、生きていくうえでとっても大切だと僕は考えます。

不破高校に入学したばかりの頃は、知っている友達もおらず、不安な毎日でした。次第に友達もでき、楽しく充実した毎日を送ることができるようになりました。しかし、時には辛いことや悲しいことがあります。そんな時に支えてくれたのが友達でした。

勉強が苦手な僕に一生懸命教えてくれる友達、部活の試合で思うような結果が出なかった時に励ましてくれる友達、困ったときにはすぐに助けてくれる友達がたくさんいたことが本当に嬉しく、僕も友達の力になりたいと思うようになりました。そして、苦楽をともにする中で、徐々に仲間同士の絆が深まっていたように思います。

助け合いができる関係はとても素敵だと思います。助けてもらった人も、助けた人も心が温かくなるからです。その時にかけてくれた言葉や行動が心に残っていきます。だから、これからも、周りの支えてくれる人に感謝し、困っている人の力になれるように頑張っていきたいです。みなさんもぜひ、自分の周りの人との関係を大切にしたいです。

「絆があるから、がんばれる」

谷中自治会 廣岡 清隆

私は、森下に住んでいます。西沢に八十九歳のおばさんがいます。子供の頃は、「プール」おばちゃんと呼んでいました。おばさんの家の東に「プール」と呼ぶ池があったのです。今のたまねぎ工場の西南です。実は、この池は、宮代小学校のプール、つまり、簡易水泳場だったのです。

南宮大社の斎館のところに宮代小学校があったころ、泳ぐ機会のなかった宮代の子どもたちのために、「おれたちがつくってやろう。」ということになったそうです。大人だけでなく、若者も子どもも総出で手作りのプールが昭和十八年にできました。頭大の玉石が敷きつめられた立派なプールです。おばの妹たちも、相川の河原の玉石を運んで手伝ったということです。地域がつながって力を発揮したのだと思います。百五十年ほど前、真禅院の朝倉移築でも「大切なものを守ろう」と宮代の住人総出で南宮から朝倉まで資材を運びきったそうです。地域がつながって力を発揮した宮代の先人の姿を見て育った人々が、プールを手造りしたのではないのでしょうか。

六十年ほど前、現在地に宮代小学校をつくる时候にも、一軒で二回、のべ千人以上の方が、学校造りの手伝いの奉仕作業に参加したそうです。地域がつながっている姿を見て、青少年、そして、次の大人が育ってきたのだと思います。一声、声をかければ、つながれる地域が宮代なのです。

宮代地域の絆を現在まで連綿と伝えてきたものは、たくさんあります。南宮大社神事芸能を大人・青年・子どもが力を合わせ伝えてきています。母衣花づくりは、小学生親子までまきこんでいます。神輿も毎年、百二十人以上のつり手が集まるようになりました。宮代の夏まつりも老若男女が集い続いています。消防団や長寿会の活動も地道に続いています。昔は青年組織として盛んだった雨乞太鼓踊りは、小学生が少年部として伝えてくれていますが、後継者が少ないというのが現状です。ふれあいスポーツ宮代も、宮代のみんなが集まれるよい機会ですが、参加者は、少なくなってきました。

さて「プール」のおばちゃんは、八十九歳の独居老人ですが、楽しみにしていることがあります。まず、グランドゴルフをすることです。大領の練習場で朝練をしたり、朝倉で多くの仲間とプレーしたりすることです。次に、町づくりセン

ターでのさわやかサロンです。五十人近くの人が集まり、おしゃべりを楽しんでいます。さらに、隣の家の方が近隣ボランティアとして、よく声をかけて下さることです。おばがよく私に話すのは、「自分からかかわっていかなあかんよ。それが、絆づくりの第一歩やがな。」ということです。

豊かに安心して暮らすためには、人と人との関わりが必要なのです。一人では何もできません。各自ができることを一生懸命にして、困っている人がいたら手をさし伸べる。そんなささえ合い、つまり関わり合いの心が必要なのです。宮代の地域は、その心を伝統として伝えていきます。まず、自分から声をかけ、それに応える大人であり続けたいです。